利根川中流域ぐるーっと遊覧シリーズ２３箇所

大稲荷神社No7近くが利根川中間地点です。

刀水橋

刀水橋は群馬県太田市高山と埼玉県熊谷市妻沼の間の利根川に架かる国道407号の橋です。河口から164.5Km の地点に架かり、長さ809.6 m、幅員 15m。刀水とは利根川の別名です。
この地には、新田義貞が鎌倉幕府を攻めて鎌倉幕府を滅亡に追い込んだ。
明治17年に船橋（河道に船を並べて、その上に板を置いた仮設橋）が架けられました。利根川の渡河は渡しに頼っていて妻沼の渡し、古戸の渡しと呼ばれていました。古戸橋は明治19年に開通しました。
大正11年と昭和18年に架け替えを行い、現在の橋は昭和46年に完成し４代目の橋です。

荻野吟子記念館 / めぬまガイドボランティア阿うんの会

利根大堰

利根川の河口から154キロの地点となる埼玉県行田市と群馬県千代田の県境に、取水のために造られたのが利根大堰です。全長700メートルにもなる巨大な堰が完成したのは昭和３３年４月とのこと。周辺の農業用水但か、首都圏への水需要に対応するために造られました。この堰は主要地方道足利・邑楽・行田線の武蔵大橋として両毛と埼玉、東京方面を結ぶ重要な役割を担っています。また、魚の遡上が見られる観察室が設けられ話題になっています。上流部はウインドサーフィンやジェットスキー等水上スポーツのメッカとして、多くのフィッシングポイントがあることから、たくさんの人で賑わっています。

荻野吟子記念館 / めぬまガイドボランティア阿うんの会

葛和田

明治の頃は葛和田と対岸の赤岩を結ぶ渡し船が運行されていました。
葛和田の沿道りが栄わっていた。
現在のような呼名が形成されたのは、江戸幕府の入府した後、葛和田、俵瀬、日向、弁財代官支配地となり、のちに大野が合併され、現在の形になっている。明治22年、町村制施行により、各村（5ヶ所）を合わせて奏村と呼んでいる。
秦地区は低地で洪水の被害を受けやすかったが、逆に水運に適し、交易・交通の要であった。埼玉と群馬県側を繋ぐ地域であった。明治36年までは葛和田河岸と舞木河岸、赤岩河岸が繁栄っている。現在は赤岩岸のみとにっている。
大龍寺東の道は、かつて鉱林と熊谷を行き来する幹線道路として、唐道りと呼ばれ大いに栄えていたと伝えられている。

荻野吟子記念館 / めぬまガイドボランティア阿うんの会

大龍寺

大龍寺は熊谷市葛和田の中心にある浄土宗寺院。
開山は徳川家康並びに秀忠公の帰依がこのほか厚かった満願智覚禅師慈上人。開基は成田氏の家臣島田吳女王。慶長１０年開明期３年に慶長のため本堂は大破し、寛文６年に改築する文久３年に慶火のため本堂、庫裏、鐘楼等紛失した。
同年、北条泰頼が寺小屋「行余書院」を開設。荻野吟子が幼い頃意欲的に基礎教育を受け、知識を飛躍的に向上させたといわれている。
明治18年に建立した之煉祭源の筆塚という顕彰碑に約200名子弟の名が筆塚に記されている。
明治40年には行余書院は閉鎖している。
現本堂は昭和３３年に再築したもので平成１７年秋に開眼。400年記念し改築を施し記念法要を奉様した。

荻野吟子記念館 / めぬまガイドボランティア阿うんの会

大野伊奈利神社

大野伊奈利神社は、利根川上手の旧河岸に鎮座しています。
鳥居上の笠木は、柱が短いため頭でっかちな形となっていて、不安定感。水害等の災害で、両方・もしくは片方の柱が折れたのではないか。北側には広大な利根川の土手が広がっている。河川敷の大野サッカー場、ラクビー場、さらにグライダー場が望まれる。ここあたりが利根川の中間地点（鮮河原は161Km。地形からしても、なにより水害防除が求められる地とみられ、「埼玉の神社」には「伊奈利社を（利根）川の側に勧請することによって、水害から村を守ろうとした開拓者の心情が推察されるとある。

荻野吟子記念館 / めぬまガイドボランティア阿うんの会

大杉神社（暴れ神輿）

大杉神社は葛和田の「荒れ神輿」で知られています。
神輿は特注重厚切り一枚で作られ、男神輿は荒神輿ともいわれることで有名です。
江戸時代、荒魔に与助という腕の良い輸送が、江戸まで運航中に暴風になったので、南無大杉大明神を唱えたところ、白髪の大杉様が現れ波静かなところに運んでくれた。享和元年そのお礼として安全を祈願して、大杉様の神輿を造った。
大正３年利根川堤防新設工事に伴い、大杉神社は現在の地神明舎に移動した。神明社と大杉神社それぞれの鳥居がある。
明治６年現在の神輿に造り替えられた。毎年、大杉神社の葛和田から鴻子の行列とともに練り歩き、利根川に入り神輿の上で猛者達が揉み合います。航海安全、疫病除け神様とされ、船乗りから信仰を集めていて、運関係者が多かった地域でした。
出来島にはあばれ神輿があります。川面にダイビングする姿は奇祭です。

荻野吟子記念館 / めぬまガイドボランティア阿うんの会

葛和田と赤岩渡船

水上交通の要所としてさかえておりました。
その後高崎線の開通によりすっかり変わってしまいましたが、今も渡船は残っています。
赤岩渡船の歴史は古く、上野謙信の時代からありました。赤岩渡船は道設いの無料の船です。昔からここには大型船が、ここから上流は浅くなるために小型船に乗り換える必要性から渡船場として発展しました。利根川には三か所ありましたが、今はここだけです。
群馬県の赤城山、榛名山など名湯の眺めは最高。利根川上空はウインドサーフィンとグライダーが飛っています。
上流（刀水橋）、下流（利根大堰）。川幅は400m、水深4m～80cm。乗船時間は約５分です。

荻野吟子記念館 / めぬまガイドボランティア阿うんの会

赤岩（赤岩宿 S30）

ここで、ひと休憩して、赤岩（昔の赤岩宿）を眺めましょう。
赤岩の歴史は古く、赤岩渡船場は利根川を利用した河川交通の要所として繁盛しました。昭和３０年～５０年当時の赤岩宿地の商店街の看板があります。当時の店舗は１３０軒以上で、船頭、船大工、鍛冶屋、飲食店、宿泊施設、魚、青果、菓子店が集まっていました。店は屋号で呼ばれ親しまれていました。
現在の残っているお店は１０軒程度で、料亭うな忠屋、山川酒造、大門寿司など。奥には八幡神社、安楽寺、光恩寺、堂山古墳などです。
赤岩のサイノリングロードの上流はなかさと公園展望台。下流に東部運動公園があります。一方、振り向くと熊谷市の葛和田、俵瀬が望めます。この方面の景観も最高です。

荻野吟子記念館 / めぬまガイドボランティア阿うんの会

光恩寺

光恩寺は約1200年前に開かれたと伝えられる群馬県千代田町の赤岩にある浄土のお寺です。
山門には二体の金剛力士像、門を入って左奥に地蔵菩薩図像板碑（県指定文化財）があります。その奥の本殿には明治16年に建てられており、建物内には平成６年に描かれた龍の天井画（左に薬師如来、右に金剛電王の同うん）があります。本殿の左側には光の涅槃堂が、金ぴかのお釈迦様が横になっています。奥の庫裏は明治初期に荒川家（鮮林の豪農）より移築されたものです。
光恩寺敷地奥には、荻野吟子の生家長屋門と堂山古墳（前方後円分）は別途紹介します。その手前の阿弥陀堂は昭和５３～５４年に建てられたものです。

荻野吟子の生家長屋門

荻野吟子生家の長屋門（合格の門）が現存しています。
移築時期は明治18年～26年頃、俵瀬村の名主、荻野綾三郎邸の長屋門（綾三郎の娘 荻野吟子の生家）です。
荻野家と光恩寺は深い関係があり、明治18年吟子が巣鳴に診療所 産婦人科荻野医院を開業した年、荻野家は長屋門を売りに出し、檀家の斡旋で長屋門が移築されたと推測されます。
長屋門は江戸時代末期の建築で、国の登録有形文化財。現在は庫裏（くり）に通じる通用門として使われています。本来は蔀蓋造（わらぶき）ですが、保存のため瓦葺きとなっています。
埼玉県熊谷市側には荻野吟子生誕之地公園があり、今も群馬県赤岩側には利根川を渡る赤岩渡船で繋がっています。

光恩寺のイベント

案内ポスター

川せがき

「川せがき」は約１５０年の伝統を誇るお祭りです。
毎年８月１８日に赤岩河岸で開かれる千代田町のお祭りです。
【川せがき川開発の由来】
明治時代に赤岩の豆腐店「かぶと屋」で働く男が利根川で誤って水死したことを悲しんだ「かぶと屋」の主人が光恩寺の住職と相談し供養したのが始まりです。
水難者供養と個人平和への祈りを込めた曲芸の競技と灯ろう流しを中心とし、打上花火、舞台芸能、民謡流しなどの催しで賑わいます。
曲芸の競技に合わせ、利根川の水面を静かに流れていく精霊を送る幻想的な光景と、川に向かって斜めに打ち上げる超低空花火は魅力的です。

堂山古墳

７世紀初頭の築造と考えられ、邑楽郡林管内で最大のもの。近隣には多数の古墳群があり、当地は利根川河岸にあって古来交通の要路であったことから、古墳時代から既に繁栄した土地であったと云える。利根川には赤岩の渡しがあり対岸武蔵野国と盛んな交流があり大いに栄えたからです。
開弥彦三尊堂の北側にある桜山１号墳と桜山３号墳の前方後円墳は２段築成で埴輪を備える。
・前方部上には赤井照光（鮮林城主）の墓と五輪塔
・後円部上には梵鐘（指定重要文化財）がある。元禄16年に建てられる
・江戸時代に石室が開口、その時に出土したとされる金銅装頭椎大刀などが光恵寺に保存されている。

新田屋

赤岩中恵のうなぎ料理でお馴染みの店。
当時のお店は利根川河川敷にあり、屋形船もやっていた。
文豪 田山花袋の小説の舞台。当時は旅館で利根川沿いにあり、執筆のため度々滞在した。1919年には新田家の女中鈴木モトをモデルにした小説「河辺の春」を発表している。
記念に掛け軸が現存している。
約50年前に河川敷の拡張工事で今の場所（舞木）に移転し現在に至る。

赤岩渡船（赤岩～葛和田）

赤岩渡船の歴史は古く、戦国時代、上杉謙信の文献に登場します。
その後江戸時代には水運が発達し、利根川を利用して江戸や関東方面との交通が盛んにおこなわれました。
千代田町は赤岩の ほか舞木、上五箇、上中森、下中森などの河岸と呼ばれる渡船場が栄えました。特に赤岩は水深もあり立地条件にも恵まれ、江戸からの大型船の終点という河川交通の要所でした。しかし、長かった繁栄も明治時代の中頃までで、その後は鉄道等の交通機関が発達するにつれ急速に衰退しました。各渡船場も廃止の一途をたどりましたが、この渡船のみ残されています。
大正15年県営。その後昭和24年から県営託事業として千代田町が管理運営を行っています。

葛和田と俵瀬

葛和田河岸（バス終点地）から福川水門まで３.1km。
江戸、明治時代は利根川の俵瀬側は連続した土手がなく、堆水のたびに、この地区に土砂が流れ込み、瀬になってきたので俵瀬と呼ばれるようになった。当時の利根川は、江戸から上州倉賀野までの船運による物資輸送が盛んに行われていましたが、50石船以上の大きい船はこの葛和田河岸まででした。これから上流は浅瀬になるため、ここから先は小さな積替え運びでした。
利根川右岸に連続堤が築かれたのは大正２から４年の時で、現在のように整備されたのは昭和３８年。このサイクリングロードから当時の様子が垣ばれます。

荻野吟子生誕之地公園

醸彫碑、吟子女史の銅像が建立されています。
1851嘉永４年荻野吟子はここ俵瀬で生まれました。
荻野家があった俵瀬は付近に湿地はなく、現在の湿地の手前辺りに長屋門が建っていて、湿地から河原にかけて約1800坪の広い屋敷の中に母屋が建ち荻野家は名主であり、「長屋んち」と呼ばれていました。江戸時代、荻野家も洪水河原にあった。荻野家は河原の半分くらいまであり、家の周囲は母などの木でかこまれていました。この地は昔から土地が低いところで「妻沼低地」と呼ばれ、江戸を水害から守る「遊水地」ともよばれていました。
この地に湿地が築かれ利根川右岸、左岸とも連続した堤が完成したのは大正初期から昭和、平成にかけて河川の幅を広げました。

荻野吟子記念館 / めぬまガイドボランティア阿うんの会

荻野吟子記念館

2006平成18年荻野吟子生誕之地史跡公園に「荻野吟子記念館」が開館する。
建物は生家の長屋門を模して、1.5倍の大きさで建てられました。
1970昭和45年～平成18年の経歴
昭和45年渡辺淳一著「花埋み」が発刊される。
昭和46年荻野吟子生誕之地が史跡となる。史跡保存会が発足。
同地に記念碑建立。平成5年吟子女史像を建立。平成10年三田佳子の「命燃えて」が公演される。
〒360-0223 熊谷市俵瀬581-1
電話 /FAX 048-589-0004
https://oginoginkokinenkan.com

荻野吟子記念館 / めぬまガイドボランティア阿うんの会

福川水門

この水門は俵瀬サイクリングロードの終点。ここから行田市に至り、西方向に利根大堰が見えます。
赤岩につ利根大堰から上流に利根川と福川の合流地点に設置されているところです。福川水門と呼ばれ、利根川の増水により福川が逆流するのを防ぎ、水害から人々の生活を守っています。
水門は昭和５３年度完成。福川と利根川の合流部に位置し、逆流防止目的として建設されました。利根川上流河川事務所の中で一番大きい水門です。

荻野吟子記念館 / めぬまガイドボランティア阿うんの会

中条堤

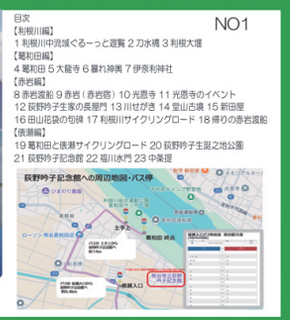
７世紀の初めに熊谷、行田に中条堤という土手がありました。
利根川で氾濫した水を中条堤で堰き止め江戸を水害から守りました中条堤は、福川と利根川の合流地点から約2.5Km 上流に位置し、福川や利根川の堤防に対して直角方向に南へ約4km 続く、旧提防です。利根川、福川、荒川の洪水を中条堤の上流側へ一時的に溜水させ、洪水の被害から下流側を守ることを目的とした控堤です。つまり、洪水が氾監することを前提として、その遊水を調節し洪水被害を最小限に食い止めるために設置されました。
なお、利根川の左岸上流に本格的な築堤文禄提がなされたのは、文禄４年。中条堤は江戸時代を通じ、明治43年に廃止されるまで、利根川治水の要でした。

荻野吟子記念館 / めぬまガイドボランティア阿うんの会

利根川中流域ぐるーっと遊覧

荻野吟子記念館 / めぬまガイドボランティア阿うんの会

遊覧（コラ夢）目次



目次
【利根川編】
1 利根川中流域ぐるーっと遊覧 2 刀水橋 3 利根大堰
【葛和田編】
4 葛和田 5 大龍寺 6 暴れ神輿 7 伊奈利神社
【赤岩編】
8 赤岩渡船 9 赤岩（赤岩宿）10 光恩寺 11 光恩寺のイベント
12 荻野吟子生家の長屋門 13 川せがき 14 堂山古墳 15 新田屋
16 田山花袋の句碑 17 利根川サイクリングロード 18 帰りの赤岩渡船
【俵瀬編】
19 葛和田と俵瀬サイクリングロード 20 荻野吟子生誕之地公園
21 荻野吟子記念館 22 福川水門 23 中条堤

荻野吟子記念館 / めぬまガイドボランティア阿うんの会

「NPO法人めぬまガイドボランティア阿うんの会」
熊谷市俵瀬581-1荻野吟子記念館内
TEL 048-589-0004 /FAX 048-589-0004